

## 子育て世代との意見交換会で寄せられた意見について（令和6年4月協議）

（テーマ）

- ・少子化対策について

No	子育て世代からの主な意見	特別委員会での協議内容
1	・ファミリーサポートは、クーポン券などの補助があるとよい。	<p>クーポン券の配付は、利用者の負担軽減を図ることができる一方、協力会員が限られていることから、依頼増を招くことで、本来支援が必要な方への対応ができなくなる恐れがあり、難しいと考えています。</p> <p>今後とも、支援の必要な家庭がファミリーサポート事業のサービスを受けることができるよう、補助制度の広報に努めていきたい。</p>
	・子育て応援券などを配付し、一時保育、予防接種、絵本などに利用できるとよい。	<p>3回まで無料で利用できるマイ保育園・マイ幼稚園カードの配付を行っており、予防接種については、任意の予防接種費用の一部助成として、年1回2,000円の助成券1枚の配付を、絵本については、図書館において、ブックスタートを実施し、赤ちゃんが絵本に興味を持つきっかけをつくるため、4か月の児童に絵本2冊とバッグをお渡ししています。</p> <p>そのほか、赤ちゃんおむつ購入クーポン券の配付を行っており、それぞれの事業で、利用目的に合わせて助成券やクーポン券を配付しています。これらを1つにまとめた子育て応援券として配付をすることについては、今後検討していきたいと考えています。</p>
	・市の子育てサービスが、子育て世代に届いていないのでは。分かりやすい情報発信をしてほしい。スマホで検索まではしない。今の子育て世代は、インスタグラムを使っている人が多い。	<p>インスタグラムや旧ツイッターなどを利用した情報の発信は、現在予定していませんが、個別の事業では、白山市フェイスブックを活用しています。</p>
	・子育て世代専用のアプリがあれば便利。	<p>子育て支援情報の配信や、母子手帳交付、10か月児相談などの予約などの機能を持った子育てアプリを新たに導入することとしており、令和6年7月頃までに運用できればと考えています。</p>
	・白山市公式ラインの情報に子育ての項目がない。	<p>今後、白山市ラインの画面の更新のときに、白山市子育てなどの項目について、広報広聴課と協議していきたいと思います。まずは、市公式ホームページを充</p>

		<p>実らせていき、閲覧しやすい環境の整備に努めていきたいと考えています。</p>
	<p>・おむつ券の年齢を遡っての支給や対象年齢範囲の拡大のほか、子育てに必要な日用品の購入に充てられるとよい。</p>	<p>赤ちゃんおむつ購入クーポン券は、お子様の誕生を祝福し、市よりおむつ購入の一部を補助するものであるため、年齢を遡っての支給や対象年齢の範囲の拡大については考えていません。</p> <p>また、子育てに必要な日用品の購入に充てられるとよいについては、事業開始時はおむつの購入のみとしていましたが、令和5年12月より、おしりふき、乳幼児用粉ミルク、液体ミルクも購入できるよう拡大を行いました。周知については、出生届の際に、児童手当の申請と子育て医療費の申請に合わせて、赤ちゃんおむつ購入クーポン券の申請も行い、利用方法と利用できる店舗の説明を行っています。</p> <p>引き続き、誰もが安心して子育てができるよう、また、保護者の経済的な負担軽減につながるよう支援していきたいと思っています。</p>
	<p>・離乳食相談や歯科相談の機会を設けてほしい。</p>	<p>離乳食相談は、乳幼児健診や相談事業の中で実施していますが、個別通知による周知が多い現状です。また、歯科健診相談事業は、年に1回一般市民を対象に実施していますが、昨年の来場者数はコロナ禍により3年間中止していたことも影響し、周知不足と認識しています。</p> <p>そこで、白山市広報及びLINEによる相談日の案内周知のほか、今年度から導入する子育て支援アプリ等を活用し、離乳食づくりや歯の磨き方などの動画等を配信するなど、効率的かつ効果的な情報提供を行っていききたいと考えています。</p>
2	<p>・父親の育児参画の意識を高めることをしてほしい。</p>	<p>男性の家事・育児への参加促進の啓発目的として、母子手帳交付時に、第1子と第2子以降の希望者に父子健康手帳を配付しています。内容はガイドブック的なものなのですが、令和5年度は600冊で交付対象の9割近くに配付しました。</p> <p>また、プレパパ・プレママ講座を年4回、パパも一緒に子育て講座を年2回程度、参加型の講座も実施しています。</p>

	<p>・病児保育をもっと利用しやすいようにしてほしい。</p>	<p>令和6年から、なるべく多くの方を受け入れられるように受入スタッフの配置、業務の分担や保育室の利用方法などの見直しを行っています。また、キャンセル待ちの保護者への連絡方法についても、一定の時間の設定などにより、なるべくお待たせしないよう工夫をしています。対象の保護者、子どもが利用しやすい施設運営に心がけています。</p>
	<p>・希望する保育所（園）に入れるようにしてほしい。（家の近く保育所（園）や兄弟がいるのに同じ保育所（園）に入れなかった。）</p>	<p>令和6年4月1日の入所状況ですが、4,887人の定員に対して4,149人が入所しており、定員を下回っている状況です。しかし、一部の地区、松任駅北地区や鶴来地域林地区では、定員を超える入所希望があります。長期的に入所増が見込まれる鶴来地域林地区については、新園を予定しており、長期的な入所希望増としない地区では、法人園、公立園が定員を増やすなどの協力連携をして、入所受入れを行っています。</p> <p>近くの保育所（園）に入れなかったについては、どうしても、定員を超える地区（園）があり、第1から第3希望の園に入れなかった場合は、勤務先や祖父母の住所地などの情報を保護者から個々にお聞きするなど、保護者の御協力をいただきながら入所決定を行っています。</p> <p>また、兄弟がいるのに同じ保育所（園）に入れなかったについては、兄弟は、原則、同じ園に入所しています。ただし、定員を超える園での兄弟入所では、その入所が年度の途中となる場合、途中となる月まで園に空きができることから、園の運営上、4月入所希望の方を優先するなどにより、兄弟が別の園となる場合があります。その場合、次年度の調整で同じ園に入所となります。法人園、公立園が協力連携し、保護者に寄り添った入所調整を行っていきます。</p>
3	<p>・母親への心理的・身体的サポートの充実。（赤ちゃんと一緒にデイサービス、自ら外に出られない母親への支援、地域全体で応援していることが伝わる支援）</p>	<p>1つ目として、医療機関や助産院で日中を過ごすデイサービス型サービス。2つ目として、同じく医療機関や助産院で過ごす宿泊型サービス。3つ目として、自宅に助産師が出向き支援をする訪問型サービスであります。</p> <p>今年度から石川中央都市圏で一括実施を行うこととなり、対象要件が体調不良等から支援が必要な方へと</p>

		<p>緩和され、利用者負担がそれぞれに 2,500 円補助されることから減額となりました。</p> <p>また、赤ちゃんの育児や家事の支援を行う産後安心ヘルパー派遣事業については、産前からの派遣も可能となったことから、さらに利用しやすくなり、サポートの充実に繋がるものと認識しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 人目にとってもお金がかかることを感じ、2 人目以降を諦めた。</li> <li>・ 子どもに費用がかかれば、産む人が増えるのでは。</li> <li>・ 経済的、仕事のにも無理。核家族では子育てをしながらでは厳しい環境。</li> </ul>	<p>育て世帯の経済的な負担を軽減するため、昨年 10 月に保育料の第 2 子以降の無償化、本年度は中学校の給食費の無償化を行っています。ほかにも、18 歳以下の子どもの医療費の無償化や赤ちゃんおむつ購入クーポン券の配付、出産子育て応援事業として 10 万円の支給などを行っています。</p> <p>国や市はもとより、企業や職場、また地域社会の役割として育児休業制度の充実や労働時間の短縮の推進など、子育てをしながら安心して働くことができる雇用環境を整備することも要因の一つと思われます。</p> <p>今後も、子育てに喜びや楽しみを持ち、安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりに努めていきます。</p>